

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所	全員協議会室
		担当職員	小野
日 時	令和2年9月14日(月曜日)	開 議	午後 4 時 10 分
		閉 議	午後 4 時 52 分
出席委員	◎並河 ○大塚 長澤 富谷 平本 小松 西口		
事務局	山内事務局長、小野主任		
傍聴者	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務事業評価対象事業の論点整理

<並河委員長>

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として評価を行う。実際の評価では、1事業45分の中で、説明約10分・質疑約10分、その後、委員間での議論を経て評価結果を出すということから、時間上の制約もあるため、議論の焦点とすべきことを事前に委員間で整理しておく必要がある。当日、その論点に沿った質疑を行い、適切な評価ができるよう、本日は論点整理を行う。

(1) 環境保全対策経費

<並河委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<三宅委員>

ポイ捨て等禁止条例はできたが、根本的にマナーの問題が大きく、前回の分科会で資料をもらったが、エコウォーカーなどの事業や活動についての啓発が不十分であると感じたため、具体的にごみを捨てさせない方法などを論点としたい。

<平本委員>

ポイ捨ては不法投棄よりも規模は小さいが、面的には広いため、今までの経過を踏まえて課題を検証し、今後どのように取組を進めていくのか確認したい。

<小松委員>

昨年度の事務事業評価で、効果的な啓発方法を検討されたいと意見をつけたが、その後、どのような啓発を行ったのか内容を確認し評価したい。

<富谷委員>

昨年度も環境保全対策経費の事務事業評価を行ったが、公害苦情処理や不法投棄の原因となっている部分について、どのような対策をとっているのかを議論したい。

<大塚副委員長>

昨年度、事務事業評価を行うにあたり現地視察を行ったが、様々なものが不法投棄されており、大変危険であると感じた。ポイ捨て等禁止条例は、施行されたばかり

であるが、そういったことも踏まえて、1年間でどのような変化や効果があったのか確認したい。

<並河委員長>

事務事業評価に選定するのは2回目なので、前回から拡充・改善してきたことや、今後の方針を論点とする。

(2) ごみ減量・資源化等推進事業経費

<並河委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<三宅委員>

環境厚生常任委員会で視察に行った際に、リサイクル率の話があったが、亀岡市では評価の指標が違うため、数値で現状を確認したい。

<西口委員>

新型コロナウイルス感染症の関係で、自宅にいる時間が増えるため、昨年度と比較してごみの量が増えていると考えられるが、どのぐらいごみが減量できているか、また市民に対して啓発ができているか成果を確認したい。

<平本委員>

埋め立てごみが増えており、中間処理業務をはじめられているが、埋め立てごみを減らさないと処分場の延命化が進められないため、これまでの検証結果を踏まえて、どのように取組を進めていくのか議論したい。

<小松委員>

ごみの分別をさらに進めていく考えがあったのか確認したい。

<富谷委員>

ごみ減量の手法は、まだまだ検討する余地はあると思うので、どういった分析をしているのか確認したい。

<西口委員>

埋め立てごみの処分場は、現在、延命化を図り15年程度運用できるといわれているが、今後、新たに処分場を造るのか、鹿児島県大崎町のように分別を増やして処分場を造らないのか、既に議論する時期に入っていると思う。これからは、そういったことも含めて論点とする必要があると考える。

<平本委員>

市長は、新たに埋め立て処分場を造らないという方針で事業を進められているが、延命化を図ったとしてもいずれ埋め立て処分場は満杯になると思われる。このことについて相反する部分があるが、どのように考えているのか確認したい。

<並河委員長>

埋め立て処分場を造らないということを前提に、どのようにごみ減量・資源化を行っていくのか現状と今後の方針を論点とする。

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業経費 (高齢者介護予防拠点活動支援事業委託料)

<並河委員長>

事務局から資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<大塚副委員長>

この事業は、地域の中で地域の人が集い、派遣されてきた専門職の方が、運動、栄養、口腔に関する介護予防教室をされている。当初6カ所あった拠点は、現在は4カ所となっているが、高齢者のフレイルや認知症予防を図るうえで重要な事業であるため、予算や事業の規模拡大について検討しているか確認したい。

<小松委員>

この事業は拡大するべきであり、事業を実施するにあたり、スタッフの応援体制が確保できているのか確認したい。

<平本委員>

これから必要となる事業であると考えますが、資料を見ると縮小しているように見えるため、必要な事業は継続、拡充していくべきであることから、そういった視点で議論したい。

<三宅委員>

高齢者の健康を維持するためには、こういった事業が必要であり、規模を縮小するのであれば、他の方法を検討する必要があると考える。

<長澤委員>

専門職に対する報酬や、ボランティアに参加してもらう全体の仕組みとして、公的にどう支えていくか関心がある。

<富谷委員>

拠点への参加が減っている理由の一つとして、この事業は通いの場と違い送迎がないため、歩いて行かなければ参加することができない。今後、通いの場を広げて地域で開催する方法とこの事業との兼ね合いがあるようなので、その課題や今後の方向性について議論したい。

<並河委員長>

拠点施設の拡大や事業自体の方向性を論点とする。

3 その他

散会 ～16:52